

正しく使えるための日本語動詞学習辞典の作成に向けて

田中大輝*, 林下淳一**, 上山あゆみ***

(キーワード：日本語学習辞典, 動詞, 意味, 意味役割, 文法格)

1. はじめに

日本語学習者の増加・多様化に伴い、日本語学習用の辞典¹⁾の充実が求められている。大島(1999) pp. 26-27によると、1969年までは日本語教育用の本格的な辞書は刊行されておらず、日本語教育用の辞書の作成を目標とした辞書研究が始まったのは1970年代から、本格的な日本語学習辞典が刊行されたのは1990年代に入ってからであるという。そこから今日にかけ、様々な日本語学習辞典が刊行されるようになった。それとともに、各辞典の問題点や今後に向けた課題などが指摘され始め(菅1986, 玉村1995, 大島1999, 野田[時]2008, 今井2010, 吉田2012など)、どのような辞典が必要であるかが具体的に提案されるようになった(玉村1995, 井上・有賀2006, 野田[時]2008, 2009, 2012, 2013, 今井2010, 野田[尚]2011など)。

近年では、辞典の種類は細分化しており、例えば、特定の品詞に特化した辞典(動詞であれば『日本語基本動詞用法辞典』『日本語多義語学習辞典動詞編』『600 Basic Japanese Verbs』『The Handbook of Japanese Verbs Starter Edition 日本語動詞総覧』など)や文型学習用の辞典(『教師と学習者のための日本語文型辞典』『くらべてわかる日本語表現文型辞典』『“生きた”例文で学ぶ日本語表現文型辞典』『新装版どんときどう使う日本語表現文型辞典』『日本語文型辞典英語版』など)のように、学習・教育の目的に合わせた辞典を選べるようになっている。また、「Japanese Learner's Dictionary」「基本動詞ハンドブック」「日本語動詞文型用例辞典」「日本語教育語彙表」のように、インターネット上で無料公開されている辞典も多い²⁾。特に最近の辞典の特徴としては、コーパスの活用により、ことばの使用の実態がそのまま辞典に反映されるようになってきている(『日本語多義語学習辞典動詞編』『どんときどう使う日本語語彙学習辞典』およびインターネット上の各辞典類など)ことなどが挙げられるだろう。

近年の日本語学習辞典は、学習者や教育者のニーズ・利便性が考慮された内容になっているものが多く、たいへん有益である。しかし、学習者が日本語(特に動詞)を適切に使えるようになるためには、辞典としてまだ不十分な点が残されている。そこで、本稿では、まず第2節において、既存の日本語学習辞典を精査し、具体的にどのような問題点があるのかを論じる。続く第3節では、筆者たちが作成を進めているオンライン動詞学習辞典について紹介し、最後に第4節でまとめと今後の課題を述べる。

2. 既存の日本語学習辞典について³⁾

2.1. 情報の幅広さ

前節でも触れたとおり、近年の日本語学習辞典は、学習者や教育者のニーズ・利便性が考慮された内容になっているものが多い。例えば、単語の意味を説明する辞典では、ほとんどすべてにおいて当該語の使用例が複数収録されているし、動詞の活用グループの情報や自他の対応についての情報も大部分の辞典で明記されている。さらに、『Essential Japanese Vocabulary』『新訂日本語を学ぶ人の辞典』『日本語教育語彙表』では語ごとにアクセントが表記されているし、『600 Basic Japanese Verbs』や「基本動詞ハンドブック」では動詞ごとに変化形が網羅的に明記されている(後者では音声再生により発音を確認することもできる)。また、『どんときどう使

*鳴門教育大学言語系コース(国語)

**Department of Languages and Cultures, University of Otago

***九州大学大学院人文科学研究院

う日本語語彙学習辞典』『The Handbook of Japanese Verbs Starter Edition 日本語動詞総覧』『日本語動詞文型用例辞典』『基本動詞ハンドブック』では当該語の類義語の情報も豊富であり（このうち『どんなときどう使う日本語語彙学習辞典』と『基本動詞ハンドブック』では対義語（反義語）の情報も載っている）、『どんなときどう使う日本語語彙学習辞典』『日本語教育語彙表』『基本動詞ハンドブック』『Japanese Learner's Dictionary』では当該語の難易度（重要度・レベル）がそれぞれの基準で記載されている。その他、当該語を用いた慣用句、複合語の情報が掲載されているものや、ネットワーク図やイメージで視覚的に理解を深められるもの、非共起例や誤用解説を含むものまであり、非常に親切な作りになっているものが多い。このように、近年の日本語学習辞典は、学習者が活用しやすいように様々な工夫がなされている⁴⁾。

2.2. 意味および意味役割の情報

学習者目線で考えれば、辞典に載っている情報は、学習言語である日本語だけで得られるよりも、自分の分かる言語で理解（を補完）できる方が望ましい。これは、日本語の単語や文法に不慣れな入門・初級レベルの学習者用の辞典はもちろんのこと、より高度な内容の学習・習得を目指す上級・超級レベルの学習者用の辞典であっても同様である。最近の辞典は、学習者の母語の多様性を考慮し、多言語対応のものが増えている（『どんなときどう使う日本語語彙学習辞典』は英語・中国語・韓国語・ベトナム語訳つき、『日本語多義語学習辞典動詞編』は英語・中国語・韓国語訳つき、『新訂日本語を学ぶ人の辞典』は英語・中国語訳つきである）が、『基本動詞ハンドブック』『日本語動詞文型用例辞典』『日本語教育語彙表』は日本語のみで書かれている。これらの辞典は、前節で述べたように、有益な情報が多数掲載されており、非常に優れたものであるから、より多くの学習者が有効に活用できるよう、今後は部分的にでも英語などの補助が入ることを願ってやまない。

現在、冊子体で出版されている日本語学習者向けの辞典はほとんどが何らかの形で英語が付されている。『どんなときどう使う日本語語彙学習辞典』や『日本語多義語学習辞典動詞編』のように、訳は当該語のみで例文には訳が付いていないものもあるが、多くの辞典では、当該語の対訳だけでなく、例文に対しても英語訳が付されている。「あふれる」を例として、いくつかの辞典の記述を見てみよう。

(1) 『基礎日本語学習辞典（英語版）』⁵⁾

当該語）あふれる：overflow

例）大雨が降って、池の水があふれました。：It rained heavily and the pond overflowed its banks.

例）ビールがコップからあふれてしまいました。：The beer ran over the top of the glass.

(2) 『Japanese Learner's Dictionary』⁶⁾

当該語）あふれる（溢れる）：overflow, run over, flood, be filled with, full of

例）水が溢れる。：Water overflows.

例）川が溢れる：A river is flooded.

例）エネルギーに溢れる：filled with energy

例）愛情に溢れる：full of love

(1) を見れば、「あふれる」という語が、概略、overflow の意味を有することは理解できるが、これだけでは、「口の中に甘みがあふれる」や「彼はユーモアにあふれている」のような、overflow に訳せない（意味が異なる）「あふれる」の用法があることは学習できない⁷⁾。また、(2) を見れば、「あふれる」が overflow 以外にも様々な意味を持つことは理解できるが、「あふれる」の訳として flood が、「川が溢れる」の訳として A river is flooded. が記載されていることから、学習者は、例えば The underpass floods. や My house was flooded. のような英文を日本語で「地下道が溢れ（てい）る」や「私の家は溢れた」と表現できるとしてしまう恐れがある。このように、対訳を付けることは学習者に近似値的な理解を与えることはできるが、それだけでは十分な理解には到達し得ない。

また、例えば「射る」については、『新訂日本語を学ぶ人の辞典』では shoot と pierce の訳が当てられており、『Japanese Learner's Dictionary』では cast (light) と hit [a target] / shoot の訳が当てられている⁸⁾が、これだけでは、「太郎が矢を射る」、「矢が的を射る」、「太郎が（弓で）的を射る」のように、「射る」にはガ格とヲ格の意味役割の組み合わせに3種類（「[移動を引き起こすもの]」が「[移動するもの]」を射る、「[移動するもの]」が

「移動の到達目標物」を射る」, 「〔移動を引き起こすもの〕が〔移動の到達目標物〕を射る」が存在することを学べない。同様に、「偽る」についても、lie や pretend の訳を付けるだけでは、「偽る」の目的語（ヲ格名詞句）には、「名前を偽る」や「年齢を偽る」のように〔(偽る) 内容・情報〕が来る場合と、「自分を独身と偽る」や「外国産を国産と偽る」のように〔(偽る) 対象〕が来る場合とがあることを学べない。他にも、「洗う」の目的語（ヲ格名詞句）には、「靴を洗う」や「顔を洗う」のように〔(取り除かれるべき) 汚れが付いている対象〕が来る場合と「汚れを洗う」や「大根の土を洗う」のように〔(取り除かれるべき) 汚れそのもの〕が来る場合とがあること、「揚げる」の目的語（ヲ格名詞句）には、「えびを揚げる」や「なすを揚げる」のように〔(揚げる) 材料〕が来る場合と「てんぷらを揚げる」や「とんかつを揚げる」のように〔(揚げた結果) できあがるもの〕が来る場合とがあることなどは、単に訳を付けるだけでは学び得ない。しかし、当該動詞がどのような意味役割の名詞句を取るかというのは、その動詞の使い方を身につけるために、本来、必要不可欠な情報である。

2.3. 文法格の情報

また、動詞の使い方を学ぶ場合、当該語がどのような文法格を必要とするか、という点も非常に重要である。しかし、実際には、日本語能力試験 N1 に合格しているような上級・超級レベルの学習者でも、文法格を正しく理解して使いこなすことは難しいようである。例えば、(3) は、筆者の一人のある作文の授業で学習者が産出した文であるが、いずれも格助詞の誤りが含まれている。

- (3) a. 「大学生の生活がだんだん慣れてきて」(学習者 A, タイ, N1 合格)
 b. 「ご飯を誘ってくれたり」(学習者 A, タイ, N1 合格)
 c. 「新しいことを挑戦すべきだ」(学習者 B, 中国, N1 合格)
 d. 「この厳しさを耐える」(学習者 C, 中国, N1 合格)

もちろん、これだけでは単なるミスタイクである可能性は否定できないが、一方で、日本語能力試験 N1 に合格しているような上級・超級レベルの学習者であっても、文法格を正しく理解できていない可能性があることも否定できない⁹⁾。つまり、学習者は、日本語の動詞の漠然とした意味（例えば「誘う」は invite や ask にほぼ相当するなど）は理解できているかもしれないが、その動詞がどのような文法格を要求し、その文法格がどのような意味役割と結びつくのか（例えば「誘う」であれば、ガ格、ヲ格、二格を要求し、それぞれ、動作主、対象、目標の3つの意味役割と結びつき、その結果、例えば「太郎が花子をパーティーに誘う」といった文が完成する）というところまでは理解できていないことが多いのである¹⁰⁾。このような誤りは、日常生活の中でその日本語を「音」として聞く分にはそれほど気にならないかもしれないが、「文字」として見ると（日本語母語話者はほとんど間違えないため）非常に目立つので、文法格を学習者に正しく理解させることも重要である¹¹⁾。

このような助詞の情報に配慮しようとしている辞典はいくつか存在する。例えば『どんなときどう使う日本語語彙学習辞典』では、見出しに格の情報が記されており、例えば「挙がる」であれば「ガ挙がる」, 「仰ぐ」であれば「ヲ仰ぐ」と書かれている。『日本語多義語学習辞典動詞編』では、見出しには格の情報がないが、例文中で格の部分が強調されており、例えば「上がる」であれば「地位が上がる」, 「消す」であれば「ろうそくの火を消す」のように書かれている。しかし、どちらの辞典も情報の提示の仕方が十分であるとは言えない。『どんなときどう使う日本語語彙学習辞典』では、「挙げる」や「欺く」などの他動詞は「ヲ挙げる」や「ヲ欺く」のようにヲ格しか記載されておらず、主語のガ格は省略されている。また、「飽きる」や「与える」のように二格を伴うもの、「握手する」のようにト格を伴うもの、「あふれる」のようにカラ格を伴うものは、見出しにはそれらの格情報は掲載されておらず（それぞれ、見出しは「ガ飽きる」, 「ヲ与える」, 「ガ握手(ヲ)する」, 「ガあふれる」となっている）、例文で「もうこのゲームにはあきた。」「成績の良い学生に奨学金を与える。」「コンサートで歌手と握手した。」「悲しくて、目から涙があふれそうになった。」のように当該格の部分が強調されているだけである。これでは、見出しを見ても例文を見ても、当該語がどの格を要求するのかが分かりにくい。また、『日本語多義語学習辞典動詞編』では、すべての例文で項となる名詞句の助詞が一貫して強調されており、たいへん分かりやすいのであるが、「お寺でお経を上げる。」の「で」, 「窓の外から中の様子を窺う。」の「から」のように、必ずしも項とは言えないものまで強調されているのが気になる場所である。動詞の項構造を正しく理解させるためには、強調する助詞は文法格を担うものに留めておいた方が良さだろう。

また、意味役割と文法格の両方に配慮した辞典もある。「日本語動詞文型用例辞典」では、例えば「射る」に

対して、「弓で矢を放つこと。ヲ格には、弓、矢または目標となるものをとる。目標をニ格にとる文型もある。」という説明を付した上で、「人・ものガ 人・ものヲ（ものニ）」という文型情報が（例文と共に）挙げられている。また、「基本動詞ハンドブック」では、例えば「ぶつかる」に対して、基本義を「ものの衝突」として「<移動物>が<もの>と〔に〕ぶつかる、<移動物>と<移動物>がぶつかる」という文型情報を提示した上で、下位分類としてさらに10種類の語義を設定し、各語義ごとに詳細な文型情報を提示している。さらに、『日本語基本動詞用法辞典』では、各動詞が要求する名詞句の意味特性（意味役割）を厳密に設定している。例えば「揚げる」に対して、「〔人〕が／は〔食物〕を揚げる」と「〔人〕が／は〔物〕を〔てんぷら・フライに〕揚げる」という2種類の文型を設定し、それぞれ「母はてんぷら〔コロッケ／とんかつ〕を揚げた」と「母はアジをフライに揚げた・エビをてんぷらに揚げる」を例として挙げているため、前節で見た「揚げる」の項の意味役割の違いが非常に分かりやすい。いずれの辞典も、日本語でしか書かれていないのが残念であるが¹²⁾、動詞の使い方を学ぶ上でたいへん有益な辞典であると言えるだろう。しかし、問題もある。例えば「日本語動詞文型用例辞典」では、「編む」に対して「人が ものヲ」と「人が ものデ ものヲ」と「人が ものヲ ものニ」という3つの文型を設定しているが、ヲ格名詞句を「もの」と表現しているだけなので、「手袋を編む」や「セーターを編む」のようにヲ格名詞句が〔編んだ結果〕できあがるものを指す場合と、「毛糸を編む」や「竹を編む」のようにヲ格名詞句が〔編む〕材料を指す場合とがあることを学ぶことができない。同様に、「洗う」に対しても、〔人ガ（ものデ）ものヲ〕と〔ものガ ものヲ〕のようにヲ格名詞句を「もの」と表現しているだけなので、「靴を洗う」「顔を洗う」と「汚れを洗う」「大根の土を洗う」のような違いを学ぶことができない。『日本語基本動詞用法辞典』も、「揚がる」については「〔食物〕が／は 揚がる」という文型および「〔コロッケ／とんかつ〕が揚がった」という例しか掲載されていないため、「えびが揚がる」や「なすが揚がる」のような例がカバーされていないという問題点がある。また、「洗う」についても、文型情報が「〔人・生き物〕が／は〔身体（部分）・生き物・物〕を洗う」となっており、例文で用いられているヲ格名詞句は「大根」「手」「芋」のように〔取り除かれるべき〕汚れが付いている対象だけであるため、「汚れを洗う」や「大根の土を洗う」のような〔取り除かれるべき〕汚れそのものが来る場合があることが学べない¹³⁾。

2.4. 例文の提示方法

語義や文型情報はどうしても抽象的に提示せざるを得ないので、具体的な使用方法を学習者に理解させるためには例文の提示は欠かせない。近年の辞典は、コーパスの発達により、当該語とより共起率の高い語が例文に使用されるようになってきたり、各種コロケーション辞典が豊富に出版・公開されたり¹⁴⁾しており、著しい進歩を見せている。ただし、前節までに見たように、動詞の場合であれば、学習者には当該語の意味だけでなく、項の意味役割や文法格まで理解させることが重要であるので、例文がその一助としての役割を果たしている必要がある。従来の国語辞典は、紙幅の都合等により、句単位の例示に留まっているものが多かったが、それでは当該動詞の項の意味役割や文法格の情報が学習者に伝わりにくいので、例は文単位で提示する方が望ましい。実際、最近の日本語学習辞典は句単位のみで例示をしているものは少なく、文単位と句単位の例を併用しているか文単位のものに統一しているものが多い。その点では望ましいものになってきていると言えるのであるが、文単位の例を複数掲載しているものであっても、当該動詞の項がすべて揃った例文を提示しているものは極めて少ない。具体的に各辞典の例文を見てみよう。

(4) 「空ける」の場合¹⁵⁾

- a. 「Japanese Learner's Dictionary」
 - ・バケツの水を空ける
 - ・牛乳をコップに空ける
 - ・部屋を空ける
 - ・仕事で家を空ける
- b. 『基礎日本語学習辞典（英語版）』
 - ・席を空ける
 - ・時間を空ける
 - ・今日の午後は家を空けます。
- c. 『新訂日本語を学ぶ人の辞典』

- ・来週は友達と会うので予定を空けてある
 - ・席を空ける
 - d. 『どんなときどう使う日本語語彙学習辞典』
 - ・壁に穴をあける。
 - ・電車でお年寄りのために席を空けた。
 - ・今度の土曜日、空けておいてね
 - e. 『600 Basic Japanese Verbs』
 - ・旅行に行くので、しばらく家を空けます。
 - ・今度の日曜日を空けておいてください。
 - f. 『日本語基本動詞用法辞典』¹⁶⁾
 - ・ねずみが壁に穴を空けた
 - ・先生は椅子と椅子の間隔を空けた
 - ・隣の人が席を空けた
 - ・母はバケツを空けた
 - ・母はやかんのお湯をポットに空けた
 - ・先生は会議のために午後の時間を1時間空けた
 - g. 『日本語動詞文型用例辞典』¹⁷⁾
 - ・水道の蛇口をいっぱい空けると、いきおいよく水が流れ出した。
 - ・三人分の席を空けてください。
 - ・話があるので、きょうの午後は体を空けておいてくれないか。
 - ・いろいろなところへ旅行に行っていて、一か月近くも家を空けていた。
 - ・ゆうべは、4人でウイスキーを3本空けてしまった。
 - ・机と机の間を1mずつ空ける。
 - ・このかべに丸く穴を空けて、ガスのホースを通します。
 - ・刑事はかばんの中身を机の上に空けて、一つ一つ調べ始めた。
- (5) 「借りる」の場合
- a. 『Japanese Learner's Dictionary』
 - ・金を借りる
 - ・ペンを借りる
 - ・電話を借りる
 - ・トイレを借りる
 - ・部屋を一年契約で借りる
 - b. 『基礎日本語学習辞典（英語版）』
 - ・金を借りる
 - ・部屋を借りる
 - ・わたしは上田さんから1万円借りました。
 - ・借りた本はあした返します。
 - ・電話をお借りできますか。
 - c. 『新訂日本語を学ぶ人の辞典』
 - ・友達に鉛筆を借りる
 - ・部屋を借りる
 - ・あなたの知恵を借りたいのです
 - ・みんなの助けを借りる
 - ・猫の手も借りたい
 - d. 『The Handbook of Japanese Verbs Starter Edition 日本語動詞総覧』
 - ・ちょっと辞書を借りるよ。
 - ・図書館で本を借りてきた。

- ・買うより借りたらどう？
- ・映画を借りてきてくれる？
- e. 『600 Basic Japanese Verbs』
 - ・友達からお金を借りました。
 - ・この図書館では一度に十冊の本が借りられます。
 - ・電話をお借りしても良いですか。
 - ・彼は東京でアパートを借りている。
 - ・猫の手も借りたいくらい忙しい。
- f. 『Essential Japanese Vocabulary』
 - ・財布を忘れたから、石井さんに千円借りた。
 - ・あの人の借りているアパートはずいぶん大きいですねえ。
 - ・うちの電話が故障だから、となりの電話を借りて電話会社に掛けた。
 - ・図書館に本を借りに行くところです。
- g. 『日本語基本動詞用法辞典』
 - ・弘は優子に金を借りた
 - ・あの国は外国から多額の金を借りている
 - ・本を借りる
 - ・土地 [車／傘] を借りる
 - ・洋子は弘に力を借りた
 - ・会社は彼に知恵を借りた
 - ・私は家の建築に彼の助けを借りた
- h. 「日本語動詞文型用例辞典」¹⁸⁾
 - ・うちの会社は銀行から金をたくさん借りている。
 - ・図書館で日本語の本を借りようと思っていたのに、他の人に借りられていました。
 - ・東京で家を借りるには、相当お金がかかります。
 - ・ちょっとトイレ、借りるね。
 - ・友達の助けを借りてようやく仕事を終わらせた。
 - ・この運動の賛同者としてお名前をお借りしたいのですが、お許しいただけるでしょうか。
 - ・企業が新製品開発に莫大な資金を銀行から借りている。
 - ・大臣のお力をこの地域の発展にぜひともお借りしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

上記を見ると、どの辞典においてもガ格名詞句が省略された例文が多いことが分かる。しかし、前節で見た「射る」や「揚がる」のように、ガ格名詞句にも意味役割に注意を要するものがあるので、複数挙げるうちの2例ぐらいは、ガ格名詞句も含めて項がすべて揃った例文を提示することが望ましいだろう。

3. 筆者たちが作成を進めているオンライン動詞学習辞典について

以上を踏まえ、筆者たちは、これまでの辞典では不十分であった側面を補うためのオンライン動詞学習辞典の作成を進めている。開発の主なポイントは以下の通りである。

- (6) a. <英語による完全サポート>
 語の説明や例文にはすべて英訳を付ける。これにより、学習者は、自身の頭の中で組織化されている英語の知識を最大限活用して日本語の動詞の使い方を学ぶことができる。
- b. <項の意味役割の明示>
 当該動詞が取る項の意味役割をできるだけ必要十分に提示する。これにより、学習者は、英訳だけでは得られない当該動詞の意味や用法を学ぶことができる。
- c. <文法格の明示>

当該動詞が取る項の文法格のすべてを明示する。これにより、学習者は、当該動詞がどのような文法格を必要とするのかを学ぶことができる。

d. <例文の工夫>

例はすべて文の形とし、各動詞につき4つずつ例文を提示する。このうち2～3文は、当該動詞が必要とする文法格をすべて備えたものとする。

以下では、いくつかの語を例として、筆者たちのオンライン動詞学習辞典の特徴を見ていきたい。まずは「揚がる」である。前節で見たように、従来の辞典では、「えびが揚がる」「なすが揚がる」と「コロッケが揚がる」「とんかつが揚がる」のように、「揚がる」にはガ格名詞句の意味役割が異なる2種類が存在することが学びにくいという問題点があるのだった。筆者たちの辞典では、それぞれ次のように提示することになる。

(7) 揚がる①

文型) N が揚がる

定義) Some object が揚がる means that it is deep-fried.

例) えびがからりと揚がった。

[Prawns] got **deep-fried** crisply.

例) なすがちゃんと揚がっているかどうか、ちょっと味見してくれますか。

Can you taste and see if [those eggplants] got **deep-fried** nicely?

例) さつまいもは揚がるのにちょっと時間がかかるようだ。

It seems that to have [sweet potatoes] **deep-fried** needs some time.

例) サクッと揚がったごぼうは父の大好物だった。

Crisply **deep-fried** [burdock root] was my father's favorite.

(8) 揚がる②

文型) N が揚がる

定義) Some deep-fried object が揚がる means that it is made.

例) かき揚げがサクサクおいしそうに揚がった。

[Pieces of mixed vegetable tempura] **were made** crisply and turned out to be very nice.

例) 白身魚のフライがこんがりきつね色に揚がった。

[Fried fish fillets] **were made** crisply and became nicely brown.

例) ハンバーガー屋でフライドポテトが揚がっている音を聞くとわくわくする。

I get excited when I hear the sound of [french fries] **being made** at hamburger shops.

例) 私は、まっすぐに揚がったエビフライが特に好きだった。

I used to like [deep-fried shrimps] that **were made** having the straight resulting shape.

(7) も (8) も文型は「N が揚がる」となっている。これは、どちらの「揚がる」も、項として取るのはガ格名詞句のみであることを表している。次に定義を見ると、「揚がる①」ではガ格名詞句が「Some object」, 「揚がる②」ではガ格名詞句が「Some deep-fried object」となっており、両者のガ格名詞句の意味役割の違いを理解できるようになっている。さらに、その後の英訳を見ることにより、両者の意味の違いを英語から補完しやすくなっている。続いて「例」を見ると、「揚がる①」では「Some object」に対応するものとして「えび」「なす」「さつまいも」「ごぼう」が、「揚がる②」では「Some deep-fried object」に対応するものとして「かき揚げ」「白身魚のフライ」「フライドポテト」「エビフライ」がそれぞれ使われており、項に来る名詞句の具体的な例を学ぶことができる。さらに、日本語の項に当たる部分が英訳では[]で表示されているため、日本語との対応付けがしやすくなっている¹⁹⁾。

続いて「射る」である。前節で見たように、「射る」に対して shoot や pierce のような訳語を当てるだけでは、「太郎が矢を射る」「矢が的を射る」「太郎が(弓で) 的を射る」のように、「射る」にはガ格とヲ格の意味役割の組み合わせに3種類が存在することが学べないという問題点があるのだった。筆者たちの辞典では、それぞれ次のように提示することになる。

(9) 射る①

文型) NがNを射る

定義) Some object travelling in the air Aがsome object Bを射る means that A pierces into B.

例) 武史の放った矢が的を射て、チームは優勝した。

[A The arrow that Takeshi shot] **pierced into** [B the target], and his team won the cup.

例) バッターボックスの太郎の眼光は宿敵のピッチャーを射るように鋭かった。

In the batter's box Taro's eyes were so sharp that [A they] were as if **piercing into** [B the rival pitcher].

例) 反対派の議員達の冷たい視線はまるで首相を射るかのようだった。

The opposition members of the Congress gave cold stares at the prime minister in such a way that [A they] were as if **piercing into** [B him].

例) サーチライトの光が逃げる犯人の顔を射るかのようには照らしていた。

The searchlight was placing light on the face of the escaping criminal as if [A it] was **piercing into** [B it].

(10) 射る②

文型) NがNを射る

定義) Some person Aがsome object Bを射る means that A shoots B with a bow and an arrow.

例) 叔父がボウガンでイノシシを射た話を私は何度も聞かされた。

I needed to listen to the story again and again that [A my uncle] **shot** [B a wild pig] with a bow gun.

例) 初めて弓を使う人が的を射るのは難しいだろう。

It is probably difficult for [A a person who uses a bow first time] to **shoot** [B the target].

例) 人類は小さな動物を射るために弓矢を発明したらしい。

It seems that humans invented bows and arrows to **shoot** [B small animals].

例) ロビン・フッドは少年の頭の上のリンゴを射ることができるぐらい弓矢が上手だったと言われている。

It is said that Robin Hood was so good at using bows and arrows that [A he] was able to **shoot** [B an apple placed on a boy's head].

(11) 射る③

文型) NがNを射る

定義) Some person Aがsome arrow Bを射る means that A shoots B.

例) 伊賀の忍者が敵の大将めがけて矢を射たが、すぐに家臣達に取り押さえられた。

Although [A a Iga ninja] **shot** [B an arrow], aiming at the opponent lord, he was soon arrested by opponent vassals.

例) 優勝のかかったその試合で、山田選手はアーチェリーの矢を無心で射た。

At the game that may earn him the archery tournament cup, [A Competitor Yamada] **shot** [B an arrow] in full concentration.

例) 流鏑馬とは射手が馬に乗って駆けながら三つの的に矢を射るものである。

Yabusame is a game where [A a shooter] **shoots** [B arrows] at three targets while riding on a running horse.

例) 太郎は初めての猟で動物に矢を射ることができたと言っていた。

Taro said that [A he] was able to **shoot** [B an arrow] at an animal at his first hunting trip.

(9) も (10) も (11) も文型は「NがNを射る」となっていることから、いずれの「射る」も項となるのはガ格名詞句とヲ格名詞句であることが分かる。次に定義を見ると、ガ格名詞句は「射る①」が「Some object travelling in the air」, 「射る②」と「射る③」が「Some person」となっており、ヲ格名詞句は「射る①」と「射る②」

る②」が「some object」, 「射る③」が「some arrow」となっていることから, 「射る」のそれぞれの項の意味役割の違いを理解することができる。さらに, その後の英訳, および, 各例文とその英訳を見ることで理解を補うことができる²⁰⁾。

ここまでは, 文型が同じで項の意味役割および当該動詞の意味が異なるものを見てきたが, もちろん, 文型が異なるというものもある。「偽る」を例にして見てみよう。

(12) 偽る①

文型) NがNを偽る

定義) Some person Aがsome information Bを偽る means that A lies about B.

例) 犯人は名前を偽って逃走していた。

[A The criminal] was fleeing, **lying about** [B his name].

例) 智子は年齢を偽って彼氏と付き合っていた。

[A Tomoko] had been dating her boyfriend, **lying about** [B her age].

例) 太郎が学歴を偽っていたので会社は太郎を解雇した。

Because [A Taro] had been **lying about** [B his education history], his company laid him off.

例) 智美の会社では, 先日, 本社の常務が身分を偽って現場の視察に来たそうだ。

I heard that at Tomomi's company the main branch manager came to do a on-site check, hiding his identity. (Lit. I heard that at Tomomi's company [A the main branch manager] came to do a on-site check, **lying about** [B his identity].)

(13) 偽る②

文型) NがNをPredと偽る

定義) Some person Aがsome object Bをsome property Cと偽る means that A disguises B as having the property of C.

例) 業者が外国の肉を国産と偽って高く売っているというニュースがあった。

I heard the news that [A a company] has been **disguising** [B foreign beef] as [C Japanese beef] and selling it with a high price.

例) その町では, 無免許の男が医師だと偽って医院を開いていた。

In that town, [A a man who did not have a doctor license] was practicing, **disguising** [B himself] as [C a doctor].

例) 太郎は自分を独身と偽って彼女と付き合っていた。

[A Taro] was dating her, **disguising** [B himself] as [C a single man].

例) その高校生は20歳と偽ってお酒を注文しようとしていた。

[A That high school student] has attempted to order alcohol, **disguising** [B himself] as [C a 20 years old man].

「偽る①」は文型が「NがNを偽る」となっていることから, この場合の「偽る」の項はガ格名詞句とヲ格名詞句であることが分かる。一方, 「偽る②」は「NがNをPredと偽る」となっていることから, この場合の「偽る」はガ格名詞句とヲ格名詞句に加え, 述語 (Predicate) を項に取る事が分かる。さらに, 定義を見ると, 「偽る①」のヲ格名詞句は「some information」, 「偽る②」のヲ格名詞句は「some object」となっていることから, 「偽る」には, 文型だけでなくヲ格名詞句の意味役割も異なる2種類が存在するのだということを学ぶことができる。

最後に, 文型, 項の意味役割, 当該動詞の意味のすべてが異なるもう一つの例として, 「あふれる」を紹介しておく。

(14) あふれる①

文型) NにNがあふれる

定義) Some place Aにsome object Bがあふれる means that B overfills A.

例) 阿波踊り当日、徳島の街には観光客があふれていた。

On the day of Awa Odori Festival, [B tourists] **overfilled** [A the city of Tokushima].

例) 野イチゴを食べると、心地よい酸味と甘みが口じゅうにあふれた。

When I ate wild strawberries, [B a great flavor of blending sourness and sweetness] **overfilled** [A my mouth].

例) あの店のなかに入ると、いつもチョコレートの甘い香りがあふれている。

Whenever I go into that shop, [B the sweet chocolate flavor] is **overflowing** it.

例) 今年は全国的に豊作で市場に米があふれているため、米の値段が大きく下がっている。

Due to abundant harvests throughout the country this year there is a lot of rice at the market, and for this reason the rice price is very low. (Lit. Due to abundant harvests throughout the country this year [B rice] is **overflowing** [A the market], and for this reason the rice price is very low.)

(15) あふれる②

文型) NがNであふれる

定義) Some place Aがsome object Bであふれる means that A is overfilled with B.

例) いっかげつ かいがいりょこう かえ おと いったいそうじ いえじゅう
例) 一ヶ月の海外旅行から帰ってきたら、夫は一切掃除をしていなかったようで、家中がゴミであふれていた。

Perhaps because my husband did not do any cleaning, [A our house] **was overfilled with** [B trash] when I returned from one-month overseas trip.

例) ゴールデンウィークになると、この街全体が観光客であふれることになる。

During the Golden Week season, [A the whole town] is **overfilled with** [B tourists].

例) 彼は片付けが得意ではないので、彼の部屋の中はいつもいろいろな荷物であふれている。

He is not good at tidying up things, and [A his room] is always **overfilled with** [B his belongings].

例) このあたりは水はけが悪いため、少し雨が降っただけですぐに道路が水であふれてしまう。

Because this area does not have good drainage, if it rains a little bit, [A the roads] will soon **be overfilled with** [B water].

(16) あふれる③

文型) NがNからあふれる

定義) Some container Aからsome object Bがあふれる means that B overflows from A.

例) はんとし いえ かえ ゆうびんう てがみ ち
例) 半年ぶりに家に帰ってきたら、郵便受けから手紙やちらしがあふれて散らばっていた。

I came back home after half a year, and I found [B letters and flyers] **overflowed out of** [A the letterbox] and scattered on the ground.

例) 3人の子どもをいっぺんに風呂に入れたので、浴槽から湯があふれてしまった。

Because I let three children get into the bathtub at once, [B hot water] **overflowed out of** [A it].

例) よほどショックだったのか、彼女の目からは涙があふれそうになっている。

Perhaps because she was very shocked, [B tears] are about to **overflow out of** [A her eyes].

例) ビールを勢いよく注ぎすぎて、泡がグラスからあふれてしまった。

I poured beer too quickly, and [B beer head] **overflowed out of** [A the glass].

(17) あふれる④

文型) NがNにあふれる

定義) Some object Aがsome flavor Bにあふれる means that A is filled with B.

例) たくさんの絵が展示されている中で、孫の絵が一番ユーモアにあふれていると静江は思った。

Among many drawings in this exhibition, Shizue thought [A her grandson's drawing] **was filled with** [B humor] the most.

例) 秀一がいつも自信にあふれているのはなぜだろう。

I wonder why [A Shuichi] always has a facial expression **filled with** [B confidence].

例) 彼の演技は人間味にあふれている。

[A His acting] is **filled with** [B real human sentiment].

例) このアトラクションでは、特殊なめがねを装着することで、臨場感にあふれる仮想現実を体験することができる。

At this attraction, by putting on a special pair of glasses, one can have the sensation that he or she actually exists in a virtual world. (Lit. At this attraction, by putting on a special pair of glasses, one can experience a virtual world, **being filled with** [B the sensation that he or she actually exists in it].)

4. まとめと今後の課題

前節までに見たように、同じ（ように見える）動詞でも、文法格、項の意味役割、当該動詞の意味の異なる複数の使い方が存在するものは少なくない。日本語母語話者はこのような違いを無意識に理解して使い分けているが、学習者はこのような区別があることを意識していない（そういったことを学んだことがない）ことが多い。筆者たちは、学習者が正しく日本語の動詞を使いこなせるようになるためには、意味・意味役割・文法格の3点を体系的に習得することが必要であると考え、これらを重点的に学べる辞典の作成を進めている²¹⁾。

本稿では、筆者たちの既存の辞典に対する問題意識を明示し、筆者たちが作成している辞典の特徴を際立たせるために、様々な辞典との比較を行う必要があった。その中で、従来の辞典に対して「問題点」や「不十分な点」があると述べたところもあったが、筆者たちにはこれら既存の辞典の価値を貶める意図はまったくないことを強調しておきたい。紙幅の都合上、一つ一つを丁寧に取り上げることはできなかったが、2.1節でその一部を紹介したように、近年の日本語学習辞典は、学習者のニーズや利便性に細やかな配慮がなされており、非常に有益なものが多い。しかし、一つの辞典ですべてを網羅することはできないので、各辞典、それぞれの編集方針や対象者に応じて提示する情報を取捨選択し、それぞれ独自の「強み」を生み出している。筆者たちが作成を進めている辞典は既存の辞典にない「強み」を有していると自負しているが、一方で、筆者たちの辞典にない「強み」を他の辞典が有しているというところも大いにある。学習者には、それぞれの辞典の「強み」をうまく活用して日本語学習に役立てていただきたい。筆者たちが作成を進めている辞典が、いつか学習者の強力な支えとなることを願ってやまない。

謝 辞

本研究は、以下の助成を受けている。

- ・ The University of Otago Internationalisation of the Curriculum Initiative Grant “Japanese verbs reference book for sentence production” (研究代表者：J.-R. Hayashishita)
- ・ JSPS 科研費基盤研究 (C) No. 16K02631 「文法理論の精度を評価するためのデータセットの作成」 (研究代表者：上山あゆみ)

注

- 1) 本稿では、総称として「辞典」という名称を用いるが、以下、文献からの引用や文献名を挙げる際には「辞書」などの名称も用いる。また、厳密には「辞典」(「辞書」)でないものも、便宜上、「辞典」として紹介する場合がある。
- 2) 本稿では、冊子体で出版されているものについては書名を『 』に入れて表し、インターネット上で公開されているものについてはウェブページ名を「 』に入れて表すことにする。
- 3) 日本語学習用の辞典(冊子体のももインターネット上のもも含む)の数は非常に多く、すべてを考察の対象とすることはできない。そこで本節では、単語の意味を説明する辞典に焦点を絞り(つまり文型辞典や漢字学習ツール等は考察対象外とし)、その優れた点と不十分な点を論じていく。

- 4) なお、いわゆる国語辞典は日本語学習者にはあまり役立たないと言われることが多い。それは、国語辞典が日本語のみで書かれている（使用言語の問題）という点に加えて、調べたい語が見つけない（見出しの問題）、漢字の読み方が分からない（表記の問題）、説明が難しすぎたり不十分であったりする（説明の問題）、文法情報が載っていない（内容の問題）など、様々な側面で日本語学習者にとって不便な点が多いからである。（国語辞典の問題点については、玉村1995、井上・有賀2006、姫野2006、今井2010などが詳しい。）もちろん、国語辞典は日本語母語話者を念頭に置いて作られているものなので、日本語学習者にとって使い勝手が悪いからといって責められるべきではない。しかし、日本語学習辞典は、国語辞典が日本語学習者にとっていかに不便であるかを見出し、それをいかに解決するかを目指すことによって発展してきたという背景があるので、日本語学習辞典の作成を検討するにあたって、日本語学習者にとっての国語辞典の問題点を把握しておくことは重要である。
- 5) ここでは、当該語や例文のローマ字表記、ルビ、および文法事項の説明等は省略する。
- 6) 「あふれる」で検索すると6件ヒットするが、例が付いているのは1件だけなので、ここではそれを挙げる。
- 7) ここで紹介しきれない『基礎日本語学習辞典（英語版）』の利点および問題点については、玉村（1995）、今井（2010）を参照されたい。
- 8) 「射る」で検索すると2件ヒットするが、いずれも例は付いていないので、ここでは2件分の対訳を合わせて挙げている。
- 9) (3)のうち、特に、「慣れる」と「誘う」は初級レベルの単語（例えば『みんなの日本語』であればそれぞれ初級の36課と37課で学習する単語）であることにも注意してほしい。
- 10) 「日本語学習者作文コーパス」でも、上級レベルの学習者の産出したものとして、以下の例が収められている。
- (i) a. 「文章を多く接しながら」（学習者 KG044, 韓国, 上級レベル）
 b. 「塾を通いながら」（学習者 KG058, 韓国, 上級レベル）
- 11) 日本語学習辞典に文法格や意味役割の情報が必要であることは、今井（2010）p. 89（18）でも以下のように指摘されている。
- 「文法・用法上の情報は必須である。たとえば、シンタグマティックなものとして各々の動詞はどのような格を取るのか、意味的な選択制限は何か（有生物・無生物など）、コロケーションとしてどのようなものが使われるのかという情報が必要である。」
- 12) ただし、大島（1999）p. 29によると、『日本語基本動詞用法辞典』は1996年10月に《日本語基本動詞詞典》として北京市の外語教学与研究出版社から中国語版が出版されており、こちらには全用例文に中国語訳（例）が付されているという。
- 13) 『日本語基本動詞用法辞典』のその他の問題点については野田 [時]（2008）に詳しい。
- 14) 『知っておきたい日本語コロケーション辞典』『研究社日本語コロケーション辞典』『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』『日本語コロケーション辞典（テストページ）』など。
- 15) ここでは、例文以外の情報は省略する。
- 16) 例が多数掲載されているため、ここでは一部だけに留めておく。
- 17) 同上。
- 18) 同上。
- 19) なお、「揚げる」は項が1つであるが、項が複数ある動詞の場合は、意味役割のところに「Some person A が」「some object B を」のように、「A」「B」…というラベルを付け、さらに英訳の[]のところにもこのラベルを表示することで、学習者が混乱なく学べるようになっている。（具体的には次の「射る」「偽る」「あふれる」を参照してほしい。）
- 20) 従来の辞典では、例文を英語に訳す際、英語としての自然さを損なわないために、例文によって当該語の部分の訳語が異なるということが少なくなかった（cf. (1), (2)）。しかし、それでは当該動詞の核となる意味が学習者に伝わりにくい。そこで、筆者たちの辞典では、できるだけ定義に忠実な訳出を行い、どうしても定義通りの訳出では不自然になってしまう場合に限り、英語としてより自然な文に訳出するという方法を採用した。ただし、その際も、定義通りの訳文を「(Lit.)」として載せてある。（具体的には次の「偽る」「あふれる」を参照してほしい。）
- 21) 実は、筆者たちは、本稿で紹介した辞典の作成と平行して、この辞典で学んだことをクイズ形式で確認でき

るウェブ学習教材の開発も進めている。この点については稿を改めて論じることにはしたい。

参考文献

- 井上優・有賀千佳子「これからの学習者用日本語辞書」、『日本語学』第25巻第8号，明治書院，2006年，pp. 22-29.
- 今井新悟「日本語学習辞書開発の課題と要件について」、『山口国文』第33号，山口大学人文学部国語国文学会，2010年，pp. 96-86 ((11)-(21)).
- 王崗「日本語の学習に役立つ日本語の辞書とは何か」、『日本語日本文学』第21号，創価大学日本語日本文学会，2011年，pp. 49-56.
- 大島中正「日本国内で刊行された日本語教育用辞書の概観」、『総合文化研究所紀要』第16巻，同志社女子大学，1999年，pp. 26-31.
- カイザーシュテファン「オンライン日本語学習辞典のデザインについて」、『文藝言語研究言語篇』第44号，筑波大学文藝・言語学系，2003年，pp. 117-132.
- 坂谷内勝・吉岡亮衛・小松幸廣「コンピュータ利用による日本語教育用辞書の開発と活用について」、『日本語学』第25巻第8号，明治書院，2006年，pp. 62-71.
- 菅泰雄「日本語教育と辞書」、『旭川工業高等専門学校研究報文』第23号，旭川工業高等専門学校，1986年，pp. 111-121.
- 砂川有里子「日本語学習者のための表現辞典」、『日本語学』第17巻第12号，明治書院，1998年，pp. 45-53.
- Sunakawa, Yuriko, Jae-ho Lee, and Mari Takahara “The Construction of a Database to Support the Compilation of Japanese Learners’ Dictionaries,” *Acta Linguistica Asiatica*, Vol. 2, No. 2, 2012, pp. 97-115.
- 鈴木睦「教師と日本語学習者のための『日本語文型辞典』とは何か ―理解と産出のための辞書を目指して―」、『日本語学』第25巻第8号，明治書院，2006年，pp. 30-39.
- 玉村文郎「外国人のための日本語辞書構想」、『言語』第24巻第6号，大修館書店，1995年，pp. 54-61.
- 野田時寛「日本語動詞用法辞典について」、『人文研紀要』第63号，中央大学人文科学研究所，2008年，pp. 133-162.
- 野田時寛「日本語動詞用法辞典について (2) ―見出し語の配列と動詞の意味体系―」、『人文研紀要』第66号，中央大学人文科学研究所，2009年，pp. 89-113.
- 野田時寛「日本語動詞用法辞典について (3) ―記述例「入る・入れる」「一入る・込む―」」、『人文研紀要』第73号，中央大学人文科学研究所，2012年，pp. 127-156.
- 野田時寛「日本語動詞用法辞典について (4) ―複合動詞一覧の試み―」、『人文研紀要』第75号，中央大学人文科学研究所，2013年，pp. 31-62.
- 野田尚史「コミュニケーションのための日本語学習用辞書の構想」、『日本語／日本語教育研究』第2号，日本語／日本語教育研究会，2011年，pp. 5-32.
- 姫野晶子「学習者のためのコロケーション辞典―『日本語表現活用辞典』の作成に際して―」、『日本語学』第25巻第8号，明治書院，2006年，pp. 40-50.
- 吉田一彦「日本語教育における辞書 ―日本の大学に留学中の学習者を中心に―」、『外国語教育研究』第15号，外国語教育学会，2012年，pp. 121-126.

日本語教科書

『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版 本冊』，スリーエーネットワーク編著，スリーエーネットワーク，2013年.

日本語学習辞典 (出版順)

- 『基礎日本語学習辞典 (英語版)』，国際交流基金，凡人社，1986年.
- 『教師と学習者のための日本語文型辞典』，グループ・ジャマシイ編著，くろしお出版，1998年.
- 『日本語基本動詞用法辞典』，小泉保・船越道雄・本田次次・仁田義雄・塚本秀樹編，大修館書店，1989年.

- 『日本語基本動詞辞典(日本語基本动词词典)』, 小泉保・船越道雄・本田晶次・仁田義雄・塚本秀樹編, 陶振孝・于日平訳, 徐一平校訳, 外語教学与研究出版社, 1996年.
- 『知っておきたい日本語コロケーション辞典』, 学研辞典編集部編, 学習研究社, 2006年.
- 『くらべてわかる日本語表現文型辞典』, 大阪YWCA専門学校・岡本牧子・氏原庸子, ジェイ・リサーチ出版, 2008年.
- 『“生きた”例文で学ぶ日本語表現文型辞典』, アスク出版編集部, アスク出版, 2008年.
- 『新装版どんなときどう使う日本語表現文型辞典』, 友松悦子・宮本淳・和栗雅子, アルク, 2010年.
- 『Essential Japanese Vocabulary』, Akira Miura, チャールズ・イー・タトル出版, 2011年.
- 『新訂日本語を学ぶ人の辞典』, 阪田雪子監修, 遠藤織枝・にほんごの会企業組合編, 新潮社, 2011年.
- 『日本語多義語学習辞典動詞編』, 森山新・荒川洋平・今井新悟(以上, 編集委員), アルク, 2012年.
- 『研究社日本語コロケーション辞典』, 姫野晶子監修, 研究社, 2012年.
- 『600 Basic Japanese Verbs』, The Hiro Japanese Center, チャールズ・イー・タトル出版, 2013年.
- 『どんなときどう使う日本語語彙学習辞典』, 安藤栄里子・恵谷容子・阿部比呂子・飯嶋美知子, アルク, 2014年.
- 『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』, 中俣尚己, くろしお出版, 2014年.
- 『The Handbook of Japanese Verbs Starter Edition 日本語動詞総覧』, John Redding, 撥鳥出版社, 2015年.
- 『日本語文型辞典英語版』, グループ・ジャマシイ編著, くろしお出版, 2015年.

日本語学習サイト

- 『基本動詞ハンドブック』, 国立国語研究所, <http://verbhandbook.ninjal.ac.jp/>, 2016年9月30日最終アクセス.
- 『日本語教育語彙表』, 汎用的日本語学習辞書開発データベース構築とその基盤形成のための研究(科研グループ), <http://jreadability.net/jev/>, 2016年9月30日最終アクセス.
- 『日本語動詞文型用例辞典』, 庭三郎・野田時寛, <http://niwanoda.web.fc2.com/index.html>, 2016年9月30日最終アクセス.
- 『Japanese Learner's Dictionary』, 筑波大学留学生センター日本語日本事情遠隔教育拠点, <http://dictionary.j-cat.org/JtoE/index.php>, 2016年9月30日最終アクセス.
- 『日本語学習者作文コーパス』, 自然言語処理の技術を利用したタグ付き学習者作文コーパスの開発(科研グループ), <http://sakubun.jpn.org/>, 2016年9月30日最終アクセス.
- 『日本語コロケーション辞典(テストページ)』, 日本語表現インフォ制作委員会, <http://collocation.hyogen.info/>, 2016年9月30日最終アクセス.

Towards the creation of a viable Japanese verbs reference book

TANAKA Daiki*, HAYASHISHITA J.-R.** and UEYAMA Ayumi***

This paper firstly reviews Japanese language reference books published in recent years from the perspective of whether they are sufficient for learners to use Japanese verbs effectively. In Japanese a verb changes its meaning depending on what types of nouns serve as its arguments and what particle those arguments take. It thus follows that a viable reference book must introduce each meaning associated with a given verb together with the information of the types of arguments it takes and the particles accompanying those arguments. The example sentences for a given verb having a given meaning must also illustrate its arguments and their accompanying particles clearly. We demonstrate that while recent Japanese language reference books are useful in a number of ways, none of them meet these criteria sufficiently ; hence, we still await a reference book that enable learners to use Japanese verbs effectively. The second part of the paper introduces our ongoing project, which aims to produce a Japanese verbs reference book meeting these criteria. Our proposed reference book targets Japanese language learners who understand English, and incorporate English explanations creatively to achieve the goal.

*Department of Japanese Language Education, Naruto University of Education

**Department of Languages and Cultures, University of Otago

***Department of Linguistics, Kyushu University